

heparan sulfate D-glucosaminyl 3-O-sulfotransferase-2 (3-OST-2) 遺伝子のサイレンシングを見出した。*3-OST-2* のメチル化異常は、乳癌85症例中75症例 (88%)、大腸癌10症例中8症例、肺癌10症例中7症例および膵癌10症例中10症例で検出された。*3-OST-2* 遺伝子産物は、細胞表面や細胞外基質に存在するヘパラン硫酸プロテオグリカンの3-O 硫酸化修飾に関与することから、*3-OST-2* のサイレンシングによりシグナル伝達の異常が生じる可能性があると考えられた。また、*3-OST-2* のメチル化異常は乳癌、大腸癌、肺癌および膵癌で高頻度に認められることから、癌由来 DNA の存在を診断するためのバイオマーカーの候補となる可能性があると考えられた。

3. Endobronchial ultrasonography guidance for transbronchial needle aspiration using a double-channel bronchoscope
(ダブルチャンネル気管支鏡を使用した腔内超音波ガイド下経気管支吸引肺針生検)

叶 康司

展開医科学専攻病態制御医科学講座 (分子内科学)

【目的】ダブルチャンネル気管支鏡を使用した EBUS ガイド下 TBNA (EBUS-D) とシングルチャンネル群 (EBUS-S) との比較検討。

【対象と方法】EBUS-D 30名, EBUS-S 25名に実施。EBUS-D: 2.8 mm のチャンネルに EBUS プローブを挿入し穿刺部位を決定。2.0 mm のチャンネルに TBNA カテーテルを挿入し病変を穿刺後, EBUS プローブを穿刺部位まで誘導し病変内の針を確認後生検。EBUS-S: チャンネルから EBUS プローブを挿入し穿刺部位決定後, 抜去して TBNA カテーテルを挿入し生検。

【結果】EBUS-D は有意に高い診断率を示した (97% 対 76%, $p=0.025$)。一回目の穿刺での診断率は有意差を認めなかったが (76% 対 64%), 2 回目の穿刺での診断率は EBUS-D で有意に高かった (87.5% 対 33.3%, $p=0.036$)。

【結語】病変内の針の位置確認ができる EBUS-D は有用なガイド方法である。

第 4 8 7 回

広島大学医学集談会

(平成16年12月2日)

—学位論文抄録—

1. 肺の異型腺腫様過形成, 細気管支肺胞上皮癌, 混合型腺癌における形質発現と遺伝子異常
 - 1) Expression of MUC1, MUC2, MUC5AC, and MUC6 in atypical adenomatous hyperplasia, bronchioloalveolar carcinoma, adenocarcinoma with mixed subtypes, and mucinous bronchioloalveolar carcinoma of the lung.
(異型腺腫様過形成, 細気管支肺胞上皮癌, 混合型腺癌, ムチン産生性細気管支肺胞上皮癌における MUC1, MUC2, MUC5AC, MUC6 の発現)
 - 2) Loss of expression of E-cadherin and β -catenin is associated with progression of pulmonary adenocarcinoma
(E-カドヘリンと β -カテニンの発現の欠失は肺

腺癌の進展に関与する)

- 3) Inactivation of the p16 gene by hypermethylation and loss of heterozygosity in adenocarcinoma of the lung
(肺腺癌における異常メチル化及び LOH による p16 遺伝子の不活化)

栗屋 浩一

展開医科学専攻病態情報医科学講座 (病理学)

近年, 肺の末梢発生腺癌は, 異型腺腫様過形成から細気管支肺胞上皮癌を経て混合型腺癌に進展する例があると推測される。本研究は, 末梢肺に生じた腺癌と前がん性病変を収集し, 免疫組織化学的に粘液コア蛋白 (MUC1, MUC2, MUC5AC, MUC6), 接着因子 (E-cadherin, β -catenin) の変化を, また p16 遺伝子のメチル化と loss of heterozygosity を調べ, 末梢発生腺癌